

平成26年4月19日

# 長与町図書館友の会「自然観察会」

## ニュースレター

NO. 2

### 平成26年 第2回植物観察会報告

>>>>>山川 続

(長与町図書館友の会「自然観察会」代表)

1. 開催日時：平成26年4月13日（日） 9時30分～13時00分

天候：雨

2. 集合場所：長与駅前ロータリー

3. 観察場所：中尾城公園および周辺

4. 観察テーマ：

「50種類の花を見つけよう」

5. おもな観察内容



(写真1)シバザクラ 20140412

#### (1) はじめに

今日の天気予報は雨。6時頃、外を見ると曇っているが、雨はまだ降っていない。しかし、観察会を実施するか判断に迷う。7時30分に実施

するかを事務局に連絡しなければならない。そこで、雨雲レーダーを見ると、午前中、雨雲におおわれるが、雨量5mm以下の予想であり、降っても傘をさして観察できると思った。また、各所に掲示している植物観察会年間計画のポスターには、「小雨決行（傘をさして観察できる程度）」と書いていたので、事務局に予定どおり実施すると連絡をして、観察会の準備をして自宅を出た。中尾城公園（以後、園内という）の駐車場に着くと、少し強めの雨が降り出し、参加者がいるのかと心配しながら、傘を差して集合場所に向かった。すると、合羽を着た10人近くが集合していた。皆さんの熱心さに感動した。

定刻になり、あいさつ、事務局からの連絡をすませ、今日の観察会について説明をした。傘をさすので、園内の歩道沿いの植物を観察することにした。花がたくさん咲いているので、今日のテーマを「50種類の花を見つけよう」にして、観察会を始めた。

#### (2) 観察した花

1 アオカモジグサ	8 オオイヌノフグリ	15 キクシダレ(桜)
2 アキグミ	9 オニタビラコ	16 キランソウ
3 アメリカフウロ	10 オランダガラシ(クレソン)	17 クサイチゴ
4 イチヨウ(桜)	11 カタバミ	18 ケカマツカ
5 イヌタデ	12 カラスノエンドウ	19 ケキツネノボタン
6 ウマゴヤシ	13 カラタネオガタマ	20 コゴメツメクサ
7 ウマノアシガタ	14 カンザン(桜)	21 コマユミ

22	サクラマンテマ	35	セトガヤ	48	ヒヤシンス
23	シバザクラ	36	タチツボスミレ	49	ヒラドツツジ
24	ジャスミン	37	タネツケバナ	50	フラサバソウ
25	ショウゲツ(桜)	38	チチコグサ	51	ホトケノザ
26	スズメノエンドウ	39	トゲミノキツネノボタン	52	マツバウンラン
27	スズメノカタビラ	40	ノアザミ	53	ミゾイチゴツナギ
28	スズメノヤリ	41	ノゲシ	54	ムラサキケマン
29	ジシバリ	42	ハナイバナ	55	モッコウバラ
30	シャクナゲ	43	ハナグルマ(ツツジ)	56	ヤエベニシダレ(桜)
31	シロツメクサ	44	ハナミズキ	57	ヤブチョロギ
32	スイバ	45	ハハコグサ	58	ヤマブキ(八重、一重)
33	セイヨウアブラナ	46	ヒメコバンソウ	59	ライラック
34	セイヨウタンポポ	47	ヒメジョオン	60	ラナンキュラス

※これらの他にも、プランターに多くの花が咲いていた。

野生種 38 種、園芸種 22 種の計 60 種を観察した。本当は、野生種だけで 50 種を越えたかったが、帰れなくなるので、園芸種を含めた。

### (3) 観察した主な花

#### ①カラタネオガタマ (別名：トウオガタマ) [モクレン科オガタマノキ属]

※新しい分類体系 APGⅢ ではモクレン科モクレン属とされる。

近くにある忠霊塔公園にオガタマノキが植樹されていることを以前教えていただいた。しかし、オガタマノキに似たカラタネオガタマがある



(写真 2, 3)カラタネオガタマ 20140412

ことを後で知り、どっちなのかずっと気になっていた。

観察会の下見の時、園内にも 2 株の幼木があり、咲いている花を確認した。そこで、花や葉を調べると、カラタネオガタマであることがわかった。オガタマノキ属の特徴は、写真 3 のように、花の中心にあるめしべの集団に柄があることである。

下表に、オガタマノキとカラタネオガタマの特徴をまとめた。

		花のつくり	葉
オガタマノキ	西日本の暖地性海岸林に自生するとされる	花被片はふつう 12 枚あり、すべて花弁状で基部は紅紫色	葉は全縁・革質。葉柄は比較的長く、2~3cm で有毛。
カラタネオガタマ	江戸時代に中国から渡来した	6 枚の花被 (外側の 3 枚は萼で、内側の 3 枚が花弁)	倒卵状楕円形。質は革質で光沢があり、ふちは全縁。

出典：だんじりのまち大阪府岸和田市の樹木図鑑

「植物雑学事典」(岡山理科大学・植物生態研究室)

## 新しい分類体系APGⅢとは

出典：ウィキペディア・フリー百科事典

- APGⅢは、APG体系の、2009年に公表された第3版で、現在の最新版である。
- APGすなわち被子植物系統グループ（Angiosperm Phylogeny Group）とは、この分類を実行する植物学者の団体である。この分類は特に命名されておらず、「APG体系」「APG分類体系」などと呼ばれる。
- ミクロなDNA解析から分類体系を構築するものであり、従来のマクロ形態的な仮説（形質の違いなど）を根拠に作り上げられた分類法に対して根本的に異なる分類手法である。
- 単子葉類のうち、科の定義において最も大きな改変のあったのはユリ科であろう。分子系統解析の結果、多系統であることが明らかになった。サクライソウ科、ネギ科（APGⅢヒガンバナ科）、キジカクシ科、サルトリイバラ科が新設され、結局、ユリ科には、ユリ属、カタクリ属、ホトトギス属などが残るだけとなった。

### ②サクラマンテマ（別名：フクロナデシコ、フクロマンテマ）〔ナデシコ科マンテマ属〕




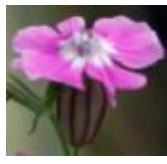
園内事務所上に植樹してあるアキグミの下にひっそりと咲いていたので、園芸種の逸脱だと思う。サクラソウの花に似ているので、この名がつけられたのだろう。また、別名は、花後に萼がふくらむので“フクロ”がついている。原産地は地中海沿岸地方で、日本へは明治時代の中期に渡来したようだ。

似た花に葉が広いヒロハノマンテマがあるが、サクラマンテマは萼筒に縦の線が目立ち、ヒロハノマンテマは萼筒に縦の線が目立たないということなので、簡単に区別できる。しかし、混同しているウェブページが多い。



(写真4)サクラマンテマ 20140412

代表的なマンテマ属の花の特徴を下表にまとめた。

マンテマ	シロバナマンテマ	ホザキマンテマ	イタリ-マンテマ	サクラマンテマ	ヒロハノマンテマ
<p>花卉に赤い斑点がある。</p> 	<p>花卉に赤い斑点はない。5弁花。最近よく見かける。</p> 	<p>5弁花だが深裂する。※ネット上でシロバナマンテマと混同されている。</p>	<p>シロバナマンテマの変種。全体に毛がない。</p> 	<p>萼筒に縦の線が目立つ。</p> 	<p>葉が広い。花はサクラマンテマに似ている。別名：レッドキャンピオン、マツヨイセンノウ</p>

### ③キクシダレ〔バラ科サクラ属〕

園芸品種の“里桜”の一種で、名前のとおり菊咲きになり枝が枝垂れる。園内に多く植樹してあるヤエベニシダレより花期が遅く、今、満開になっている。園内の草スキー場脇に一株だけ植樹してある。

(写真5)キクシダレ 20140412

花卉は50枚を超え、雄しべが見えない。副萼片がみられ、キク



ザクラと特徴は一緒である。最近ではカスミザクラ系と考えられている。

他の桜では、ショウゲツ、カンザンが満開である。ソメイヨシノはすでに葉桜、ヤエベニシダレ、イチヨウ、オモイガワは満開を過ぎ、葉桜になろうとしている。

④ヤマブキ [バラ科ヤマブキ属] ※本種のみの一属一種

八重咲きヤマブキの大きな株の中に、数輪だけヤマブキ（一重咲き）が混じっていた。最初、カイヅカイブキの葉のような“先祖返り”かと思った。しかし、近くにヤマブキの株もあったので、蔓が伸びて絡まったものとわかった。

ヤマブキには多数のおしべと 5～8 個のめしべがあり果実ができ、八重咲きは全部のおしべが花びらに変化しているので、花粉ができないため実はできない。このように、おしべ、



めしべの違いを気にしながら観察するのも（写真6）八重と一重のヤマブキ 20140412 おもしろい。

「ヤマブキは実がならない。」という話を時々聞くが、そう信じている根拠は、太田道灌のエピソードで有名な和歌、「七重八重 花は咲けども山吹の みの一つだに無きぞ悲しき」にあるのかもしれない。しかし、果実ができないのは八重咲きヤマブキであって、一重咲きには果実ができる。

「七重八重 花は咲けども山吹の みの一つだに無きぞ悲しき」

※後拾遺和歌集にある兼明親王の歌

「別荘にいたとき蓑を借りにきた人がいたので、山吹の枝を渡してやった。翌日その人が、意味が分からなかったと聞いてきたので、この歌を詠んで渡した。」のだそうです。

意味は、「七重咲き八重咲きと、山吹の花が綺麗に咲いている屋敷だが、その山吹に実のひとつもできないように、この屋敷には蓑ひとつ無いんだから悲しいよ」といったところでしょうか。つまり、なぜなの答えの歌なのです。

※出典：自然原理主義：オモシロ自然観察・実践/応用編「5.ヤマブキには実がならないの？」

○参考・引用資料

- ・勝木 俊雄：日本の桜（フィールドベスト図鑑）
- ・このはなさくや図鑑 日本の桜
- ・松江の花図鑑
- ・岡山理科大学：植物雑学辞典
- ・大原 隆明：サクラハンドブック
- ・森林遺伝育種学会：森林遺伝育種「APGに基づく植物の新しい分類体系」
- ・自然原理主義：オモシロ自然観察・実践/応用編「5.ヤマブキには実がならないの？」

---

長与町図書館友の会「自然観察会」 ニュースレター NO. 2

発行日：2014年4月19日

編集：山川 続メール：[yamagawa1957@yahoo.co.jp](mailto:yamagawa1957@yahoo.co.jp)

<http://www005.upp.so-net.ne.jp/yamagawa/syokubutsu-kansatsukai-annai.html>

発行者：長与町図書館友の会「自然観察会」

---